

新年度フレッシュマン・若手特集

目次

- ・ 学生と先輩の交流会……岩井 裕 (pp.1-2)
- ・ 機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻(大学院)の修了式と機械システム学コース(学部)の卒業式……蓮尾昌裕 (p.3)
- ・ 協坂基金報告……事務局 (pp.3-4)
- ・ 関東支部MOT(技術経営)セミナー報告……寺本勝行、久保田一史 (pp.5-6)
- ・ 京都大学フォーミュラプロジェクトKART……伊藤瑛里 (pp.6-7)
- ・ 京機会米国同窓会(仮称)報告……朝倉涼次、長谷川寛晃 (p.7)



京都の桜守 佐野藤右衛邸の桜

©京都を歩くアルバム <http://kyoto-albumwalking2.cocolog-nifty.com/>

学生と先輩の交流会

岩井 裕 (H5/1993卒)

3月2日(金) 京都リサーチパークにて、京機会学生会(SMILE)による“学生と

先輩との交流会”が開催されました。今回で19回目です。95社2省庁のブースと、200名を超える学生の参加で盛況でした。学生にとっては、様々な分野へ進んだ機械系の先輩が、どんな仕事をしているのか直接・具体的に聞ける貴重な機会です。また当日夕刻の懇親会では、学生と先輩の交流はもとより、同期あるいは同研究室出身者でのミニ同窓会のような場面もそこここでありました。京機会行事ならではの。次回は記念すべき(?) 20回目で2019年3月1日(金)開催予定とのことです。OB・OGが現役で在籍する企業ならご参加いただけます。



機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻（大学院）の修了式と 機械システム学コース（学部）の卒業式

平成29年度 機械システム学コース長 蓮尾昌裕（S61/1986卒）



修士修了式 於：桂キャンパス



学部卒業式 於：吉田キャンパス

平成30年3月26日、27日に、それぞれ機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻（大学院）の修了式、機械システム学コース（学部）の卒業式を挙行了しました。26日には京機会主催で記念パーティーも開催しました。修了・卒業した諸君には、新しい進路での大いなる活躍とともに京機会活動への積極的な参画を期待しています。

脇坂基金報告

事務局



脇坂知行氏（S44/1969卒）のご寄付で2008年に設立された脇坂基金（<http://www.keikikai.jp/kikin/wakisaka.htm>）について、10年目を迎えましたので、これまでの支援実績をご報告させていただきます。

脇坂基金は、

「京都大学機械系学科は、日本の産業・工業の発展を導いてきた多くの人材を生み出し、今日までの日本の豊かさの礎を築いて来た。しかし、近年は日本の産業を始めとする様々な分野で、停滞状況が広がって来ている。これは、日本人の視野が内向きになっていることや、安定志向が一因と考えられる。このような状況を打破するため、京都大学機械系学科は、将来の日本を支える人材として、チャレンジング精神かつ国際的視野を持った人材を輩出し続ける責務を負っている。そして、そのことは若い人々の育成に懸かっている。とりわけ、大学院修士課程に在学する学生が、自分の研究成果を海外で発表すること等にチャレンジすることを通じて、世界の様々な国の研究者・技術者がどのような考え方をするかを知り、良い知己を若い内から得ることは、国際的に広い視野を持った人材として成長する上で極めて重要なことである。チャレンジング精神に富む学生が、在学中にそのような機会を得やすいように援助できれば、それは京都大学機械系学科のみならず、日本の発展、延いては世界の人々の幸せに、些かでも寄与できるものと考え、この基金を提案するに至った。」

の趣意のもと、支援対象を

「本基金は、京都大学大学院 機械系専攻群の研究室に所属する京機会学生会員自身が、修士課程在学中に、国際会議等で初めて研究発表、あるいは国際的なエキジビション等で自分の研究開発成果を初めて展示、もしくは国際的な技術コンペティション等に初めて出場・出品等を行う際に必要な旅費を補助するものである。」とされています。

現在まで以下のように累計40件の支援を行い、あと約半分弱を残すことになりました。本基金の対象となる学生諸君は積極的に応募して下さい。

年度	H21 2008	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	計
件数	7	2	3	3	4	6	6	5	4*	40

基金総額：6,000,000円

支給総額：3,312,166円（1件平均：約83,000円）

（※ 2017年度分に関しては2018年4月5日現在の件数。近日中に2件追加決定の見込み。）

関東支部MOT（技術経営）セミナー報告

寺本勝行（H21/2009卒）、久保田一史（H19/2007卒）



さる3月25日、京機会関東支部の若手会主催にてMOT（技術経営）セミナーを開催致しました。MOTセミナーは、各界でご活躍の諸先輩方にご講師を頂き、若手が通常の業務環境で得難い知識・思考の習得を目指すことを目標に2011年より開催をしており、今回で12回目となります。

今回は、宇部興産(株)の社長でいらっしゃいます山本謙（S50/1975卒）様にご講師を頂き、『会社生活での経験から得られた大切に思う事』の題目にてお話しを頂きました。山本様の会社生活を年表形式で振り返りながら、各年代でご経験された様々なエピソード、またその際、ご自身の考え方を形成する鍵となったお言葉をお話し頂き、若手にとってこれから社会人生活で経験していくであろう数々の難題に対し、どういった思考を持って臨んでいくべきかについて大きな示唆を頂いた、非常に実りあるご講演でした。会社の実務を担う中で判断に悩むことが増えてきました30代前半の私たちにとりまして、数あるお言葉の中でも特に「何事も自己納得が大事」という言葉は心に刺さり、日々の業務で悩んだ際に何事も考え尽くすことが出来ているかを自問自答する指標にしたいと思った次第です。

講演後の質疑では、「日米欧の企業の本質的な違いについて」といった大きな概念のものから、「仕事を任せるとは」といった若手が日頃直面する課題まで様々な質問が予定時刻を過ぎるまで飛び交い、山本様のご経験に基づく率直なアドバイスを多岐に渡り頂きました。この場をお借りし、素晴らしいご講演を頂きました山本様に感謝を申し上げます。

京機会関東支部の若手会では、諸先輩方のご貴重な経験の若手への伝授を目指し、今後も本セミナーを開催して参ります。若手の皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。（於：FUKURACIA品川高輪）

京都大学フォーミュラプロジェクトKART

伊藤瑛里（物理工学科4回生）

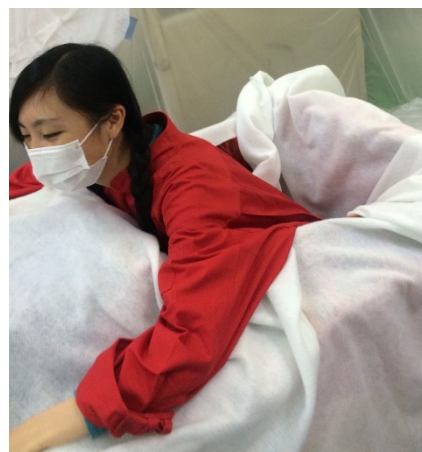
私たち京都大学フォーミュラプロジェクトKARTは、学生フォーミュラと呼ばれるモータースポーツで日本一を目指し活動しているチームです。学生フォーミュラでは毎年1台のフォーミュラカーを学生自身が開発・設計・製作・評価し、大会で競わせます。

昨年9月に行われた第15回全日本学生フォーミュラ大会でKARTは総合10位という結果に終わりました。設計の論理性を競うデザイン競技では新規性のある独自の開発が評価され1位を獲得するなど、設計面において高評価を得ることができました。その一方で、実際の車両を使用して行う動的競技において、エンジンの不調等で思うように結果を残すことができず、総合優勝争いに加わることはできませんでした。

総合優勝を目指して1年間活動してまいりましたが、悔いの残る結果となりました。この悔しさをばねに、次こそは最高の結果を掴むために、今年度プロジェクトをスタートいたしました。

設計を終えて現在製作中の2018年度車両では、新設計ドライブレインや新エンジン、大型エアロデバイスの搭載など、新たな技術に挑戦しております。

このような学生フォーミュラの活動では、京機会をはじめとして多くのご協力があつて様々なことに挑戦することができます。各支部の懇親会等で皆様とお話しをさせていただく機会もございますが、総合優勝を獲得するために、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



（右上写真ではカーボンモノコックの製作中のためマスク姿で失礼します。）



京機会米国同窓会（仮称）報告

朝倉涼次（H15/2003卒）、長谷川寛晃（H19/2007卒）

さる3月10日、アメリカ在住の京機会若手3名でサンフランシスコに集まり、京機会米国同窓会（仮称）を開催致しました。シリコンバレーの大企業やスタンフォード大学等の近郊の名所を巡りつつ、食事を共にし、シリコンバレーにおける日本人の活躍、日本企業の進出状況、また、ロボット等の最新技術・産業動向に関する談議に花を咲かせました。グローバル化に伴い、日本国外で活躍する京機会会員もますます増えていると思います。人が人を呼び、双方をInspire(触発)していくという良いサイクルを生み出すためにも、米国において京機会のネットワークを広げていければと考えておりますので、本活動をご支援頂ければ幸いです。



左から、河本和宏（H22/2010卒、サンフランシスコ在住）、長谷川寛晃（ロサンゼルス近郊在住）、朝倉涼次（ポートランド近郊在住）